

◆研究概要等

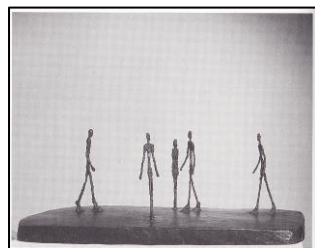
研究のテーマは簡単な一言です。それはグロピウスの「Der Bau」へ向かっての考察です。1964年東京オリンピック時に建設された丹下健三設計の代々木体育館に憧れ、建築を志しました。その後、大学で建築が非常に幅広い分野(建築計画・都市計画・日本及び西洋歴史・各種構造・環境工学・防災・施工・見積・地震対策)を含むことを知りました。

最後に私が選んだのは増田友也の建築論です。増田友也は西田哲学の流れを含み森田慶一を含む京大派の雄です。ハイデッガーから現象論へそして、最終的な世阿弥「風姿花伝」を着地点とした人物です。輪読していた講義は緊張の連続です。颯爽としたその容姿は今でも憧れです。大学院では引き続き創造の一瞬を追う考察を進めました。今、話題のル・コルビュジェ設計のカーペンターセンターの創作の一瞬を芥川龍之介、ユングの無意識の構造を引きながら証明しました。そして、最後に行きついたのヘルダーリンの詩「はじまりの構造」です。これから、そして、最後まで考察と実践を進めます。

■研究テーマ等

1. 環境建築論

森田慶一、増田友也、そして私の師・加藤邦男の言葉をたどり、建築論を探っています。建築論は、「建築の本質を問う」と定義されています。英語では the theory of architecture とします。その概念は人間の存在を問う建築論ですが、「環境」という言葉をいれ、環境建築論としました。色々な方がこの言葉を提唱しています。これは、いわば、右図のジャコメッティー「歩く人」を問う事かも知れません。具象と抽象という概念への問いかけでしょう。



ジャコメッティー「歩く人」
: 私の現実・みすず書房

環境まちづくり専攻
津島研究室
准教授
つしま ひかり
津島 光

hikaritsushima@socio.kindai.ac.jp



<http://researchmap.121626>

2. ワルター・グロピウスの「Der Bau」

1919年バウハウスの創設者として著名なワルター・グロピウスはバウハウス宣言で「Der Bau」を提唱しました。産業革命後の技術革新の中、フランス哲学等の人間存在を問う流れと表現方法を模索する絵画・彫刻を含む芸術の流れを統合しようとした人物です。今でもモダニズムの源泉の一人として多くの方がその跡を尋ねます。パウルクレーもバウハウスの教員の一人です。多様な教授陣は圧巻です。: 造形思考・みすず書房.



パウル・クレー

3. 創造過程における一考察:

ル・コルビュジェ・カーペンターセンター設計過程より

あることを人は感じ、考える事から伝えるために言う、書く、次に方法を選び、描くと言えます。エスキースで始まるデザインも同じです。その過程、作品の発現の一瞬を問うため、近代建築4大巨匠・ル・コルビュジェを選びました。理由は、彼の考え方と表現に「純粹」を伺えたからです。ハーバード大学に悠然と建つ建物は圧巻です。そして、コンクリート打ち放し仕上げの「ル・コルブ」のカフェの味は格別でした。近くに、ハーバード大学建築学部長を務めたグロピウス設計の学生寮があります。表現主義的なカーペンターセンターと理知的な学生寮の対象は印象的です。近畿大学の14名の学生と訪問したグロピウス設計のバウハウスの延長線上の表現を感じます。

●論文・作品・表彰・特許等

1. 「創造過程についての一考察」 : ル・コルビュジェのカーペンターセンターから
2. 「環境建築論へ」 : 工作舎 (自費出版)
3. 「スポーツ産業論」 : 杏林書房 (共著)
4. 「スポーツファシリティマネジメント」 : 杏林書房 (共著)
5. 京都市庁舎立替コンペ優秀賞 (個人)
7. ベネッセ岡山本社ビル 日経ニューオフィス賞 (担当・会社表彰)
8. フェニックスタワー 大阪市都市景観建築賞 (担当・会社表彰)
9. 1980年3月31日 : 工学修士・建築学 (京都大学大学院)
10. 2016年度 日本建築家協会 「笑都物語」 (津島ゼミ参加)
11. 2015年度、2016年度 全銀座会主催 「銀茶会」 (津島ゼミ参加)
12. 2016年度 福井県おおい町学生政策コンテスト (津島ゼミ参加)
13. 熊本県嘉島町・第2次震災調査・参加予定

▲資格等

- ・一級建築士 ・インテリアコーディネーター・インテリアプランナー・ファシリティーマネージャー
- ・コンストラクションマネージャー ・コンクリート打設技師 (更新未了) ・世界遺産検定2・3級
- ・震災応急診断士 ・関西大学環境都市工学部「建築生産」非常勤講師 ・管理建築士講習会講師

▲趣味等

1: スケッチング 2: 音楽鑑賞 3: 料理 4: スポーツ (TD誌選考 オールジャパン)

◆ゼミの宣伝等

基本方針は「自由・独立・協同そして国際」。舞洲周遊・銀茶会・福井おおい町学生政策コンテスト参加多数。未来志向の実学と人格の陶冶を実践しましょう。お待ちしております。

4. 「みる・見る・観る・視る」について

担当講義の「環境心理行動学」では色々なもの、事のはじまりを、みる＝単純にみる、見る＝考察をはじめめる、観る＝メモ、写真を撮る、そして、視る＝最後に自らの眼でみる、と説明しています。英語で言うと、look, see, watch, think でしょうか。大変な時代です。莫大の情報を簡単に思考する必要があります。環境建築論的思考と制作でいうなら、思考ですが、環境まちづくり系の学生には伝えたいことです。主観から客観へ移動するプロセスです。この巨大な爆発的な情報化プロセスは今、一瞬に出来ます。建築で言うなら3次元CADが設計を変えました。

卓越した道具を得た今、みる、見る、観る、視る思考は役に立つものです。考えを敷衍し近未来的なものとしします。キーワードはICTです。

